

解体工事 & 建設リサイクル

隔月刊 EConecture 年6回奇数月1日の発行 通巻第105号
2021年11月1日発行 2007年7月6日第三種郵便物承認

隔月刊 [イー・コンテクチャー]

自然と資源を再生し環境を創造する。

ECon

Ecology
Construction
Architecture

tecture

11

November 2021

特集

解体・建廃 地域特集

第1部 近畿 第2部 関東 第3部 北日本 (北東北3県、北海道)

E-Conインタビュー

激動の北海道で業界のレベルアップに碎身

(一社)北海道解体工事事業協会会長 堀井太一氏

来年2月に 産業廃棄物処理検定を開催

(公社)全国産業資源循環連合会

産業廃棄物処理検定(廃棄物処理法基礎)を来年2月13日に実施する。申込受付期間は12月1日から来年1月13日、インターネットで受け付け、受験料は1万2100円(税込)となる。国の感染症対策ガイドラインを踏まえた上で、全国13会場で同時に実施する。マークシートによる筆記試験で、廃棄物の種類、排出事業者責任、委託契約、マニフェスト、帳簿、保管基準、処理基準等に関する法令基礎について出題される。(2月13日実施)

後方超小旋回の 1.7tミニショベルを発売

コベルコ建機(株)

1.7tクラス後方超小旋回ミニショベル「SK17SR-6」の販売を開始した。燃費やメンテナンス性の向上策を導入した新製品となる。

燃料消費量軽減策として、乗降遮断レバーと連動してエンジン回転数を低下させる「カットオフデセル機能」やエンジン回転数を抑制する「エコモード」を搭載する。また、セレクトバルブをフレーム下部に標準装備したことで、ニブラやブレーカにアタッチメントを変更した際の油圧切り替えが容易にできる。LEDの前方作業等はブー

泥土リサイクルの案内書を作成

(一社)泥土リサイクル協会

同協会理事の排出事業者で活躍する中堅技術者を中心に泥土リサイクル活性化プロジェクトチームを発足、情報提供や課題の抽出、最適な再生利用方法の発信を進めているが、さらに官・学・法務のアドバイザーの指導のもと「そこが知りたい泥土リサイクル」を作成した。

同書では泥土の現場内利用・工事間利用を推進する上で、工事担当者が迷うことが想定されるポイントを人、方法、機械、材料、検査、モラルに分類し解説。迷わずに業務を遂行できる

●開催地(予定)

都府県	会場名	定員(人)
岩手県	アイーナいわて県民情報交流センター	50
栃木県	栃木県教育会館	50
東京都	TKP市ヶ谷カンファレンスセンター	90
神奈川県	神奈川労働プラザ	90
新潟県	新潟県建設会館	80
石川県	石川県地場産業振興センター	30
長野県	ホテル信濃路	60
愛知県	名古屋国際会議場	80
滋賀県	ピアザ滋海	70
大阪府	大阪私学会館	80
広島県	広島市文化交流会	90
福岡県	福岡県中小企業振興センター	50
熊本県	メルパルク熊本	60



「SK17SR-6」

ム下部に配置し、破損リスクを抑える。4柱キャノピはオプションで対応。クローラ幅は最小で950mmとなる。販売価格は332万5000円で、年間300台の販売目標を掲げる。(9月16日発売)

よう配慮した構成を取る。「最適なりサイクル方法が分からない」、「誰に相談すればいいか分からない」など、それぞれの状況に対応して、直接的な回答だけでなく、参照すべき通知や書籍、問い合わせ先や問い合わせの際のポイントについてまで具合的な解説を行っている。泥土リサイクルを推進するため、中間処理業者による処理・リサイクルも選択肢として踏まえている。

編集を取りまとめた同協会の西川美穂事務局次長は「建設汚泥リサイクルはコスト低減のみならず温暖化防止に大きく寄与する、CSRそしてSDGsへの取り組みの一環としての実施に本書を役立ててほしい」と述べている。問い合わせは(一社)泥土リサイクル協会(☎0587-23-2713)まで(循環経済新聞10月4日号)